

三井デザインテック 「オフィスワーカー調査 2015」を発表

- “コミュニケーション”リフレッシュ”集中”が現在のキーワード
- オフィスへの投資が推進されることで、職住遊の環境が近接

三井デザインテック株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：渋谷忠彦）は、毎年定期的に行っている意識調査として、「オフィスワーカー調査 2015」を発表しました。

三井デザインテックでは、オフィスを創造する企業として、現状のオフィス環境から、ワーカーの働き方の実態、そして求められるニーズを把握し、定量データとして調査・分析を行っております。11月11日には、調査結果をまとめた「Office Worker's Data Book-3」を元に、2015年のオフィスワーカーの意識調査を発表しました。本調査は都心5区の企業（規模200名以上）に勤務するオフィスワーカーを対象に実施され、3,431名の回答が集まりました。

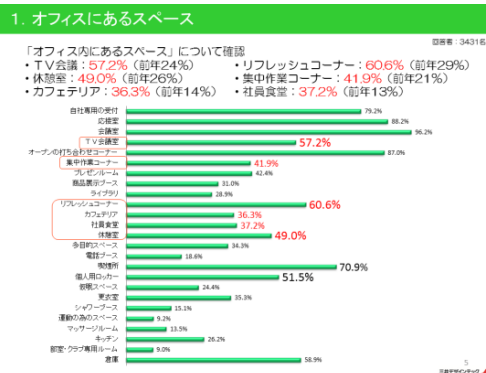
＜オフィスワーカー調査 2015 における主な特徴＞

- オフィス内に「リフレッシュコーナー」「カフェテリア」など働く場（ワーキングスペース）以外の環境が増加。一方で「集中作業コーナー」へのニーズも高く、“コミュニケーション”“リフレッシュ”“集中”がキーワードとして挙げられる。
- TV会議システムの利用率は57%と昨年の24%より飛躍的に向上
- フリーアドレスを部分的に取り入れている企業は27%と、業務によってデスクレイアウトを工夫している企業が増加
- コワーキングスペース、シェアオフィスの利用はまだ高くはないが、潜在需要はあり今後の増加が見込まれる

調査結果 概要

■ オフィスに欲しいスペース

昨年度より、リフレッシュコーナー（29%→60.6%）やカフェテリア（14%→36.3%）など働くだけの場以外のコミュニケーションスペースが大きく増加しています。コミュニケーションの重要性と共に様々な環境で働けるスペースを企業は提供してきています。本年12月から実施されるストレスチェック制度の影響もあり、従業員の健康へ投資する傾向がオフィス環境においても見られます。



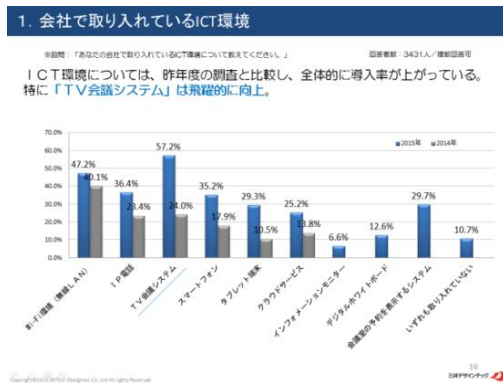
一方で、集中作業コーナー（21%→41.9%）のスペースを取り入れている企業も倍近くに増加しています。



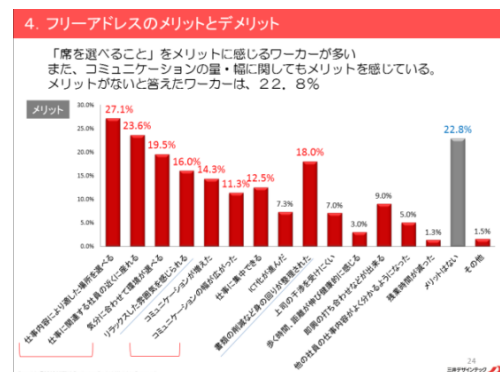
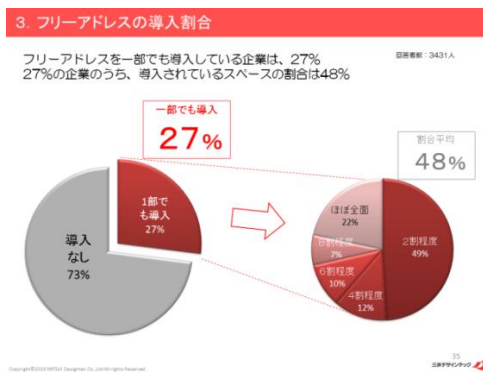
集中作業コーナー イメージ
(写真は三井デザインテックオフィス内)

■企業が取り入れている ICT 環境

企業が取り入れている ICT 環境も前年と比較して大幅に導入率が増加しており、特に TV 会議システム（24%→57.2%）、タブレット端末（10.5%→29.3%）などが飛躍的に向上しています。



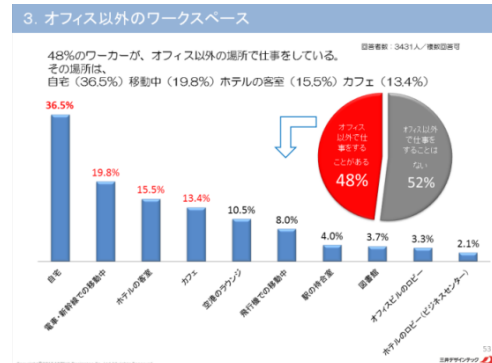
■フリーアドレスの導入



フリーアドレスを導入している企業は、27%。また、約 77%のオフィスワーカーは、フリーアドレスにメリットを感じています。特に、席を選べることで取り組む仕事内容によって気分を変えられることが大きなメリットと感じていますが、一方でメリットを感じていないワーカーも 22.8%と一定数見られます。

■オフィス以外のワークスペース

オフィス以外で働く機会を持つワーカーは、48%。オフィス以外では自宅や移動中が大半を占めていますが、コワーキングスペースやシェアオフィスなどの普及により、ワーカーが目的に応じてより生産的に働く傾向が今後は増加していくと予測されます。



「オフィスワーカー調査 2015 (Office Worker's Data Book-3)」では、上記のポイントをさらに詳細に説明しています。報道関連の方で詳細情報が必要な方はご連絡ください。

ICT 環境の進展により、業務に合った環境で働くワーカーが増加

今回の調査を分析した結果、Wi-Fi 環境の整備、TV会議システムなどICTのテクノロジーを装備したオフィスが急激に増加しており、執務デスクに縛られることなく仕事内容に合った場をワーカーが自由に選定して働くようになってきていると言えます。

その手段の一つとして、フリーアドレスを導入する企業も増加してきています。従来、フリーアドレスを導入する企業の多くは、日中に使用されていないデスクを有効に活用する「スペース効率重視の運用」を目的としていましたが、近年は、効率性ではなく、創造性、つまりは新しい発想、サービスの付加価値を与えることが求められる企業が増えてきていることから、フリーアドレスが「コミュニケーション」を目的とした本来の運用に変化してきています。

さらに、多様な価値観を持つワーカー同士のコミュニケーション醸成の為、単なるワークスペースだけでなく、コミュニケーションスペースとして飲食を提供するカフェサービスや、健康の為に体を動かせるスペースなども増加しています。また、これらは現在の共通する経営課題である優秀な人材の確保に向けた取り組みでもあります。

ICT環境が発展することにより、オフィスワーカーは社外でも仕事をする事が可能となり、自宅やカフェなど、より生産性の高い働き方を自主的に行うワーカーも増加しています。つまり、オフィスワーカーは、自社内、あるいは社外も含めた場所を働く場として捉え、業務目的に合った環境を選ぶようになってきているのです。

企業は、「生産性向上と人材確保の為に、今後さらにオフィスに投資」し、オフィス内に様々な環境が整っていくことにより、「職住遊の環境が近接していく傾向」は今後も高まっていくと考えられます。

[オフィスワーカー調査 2015] 解説者

◆大川 貴史

三井デザインテック株式会社 ソリューション推進部
空間に係わるマーケティング・プロモーション・コンサルティングのマネジメント業務に従事。
主にホテル、オフィスのマーケティング、及びコンサルティング等のプロジェクトマネジメントを担当。



「Office Worker's Data Book」に基づく、オフィスワーカー調査レポートを毎年発表・解説している。また、世界最大級のオフィス家具イベント「Neocon」を分析し、オフィス家具における最新トレンドについても毎年発表している。
その他、オフィスワーカー向けタブロイド紙「Offiche」やインテリアライフスタイル雑誌「LORO」の編集も担当。

◆三井デザインテック株式会社とは

三井デザインテックは、主に住宅・オフィスをはじめとして、ホテル・医療・福祉・学校・賃貸マンションなど、あらゆる生活・事業に必要な施設のインフィル（内外装・設備・間取り）の創造を手がけ、お客様に「心地よい、満足できる空間」をご提供しています。

最新情報はオフィシャルサイトをご覧ください。<http://www.mitsui-designtec.co.jp/>

<本件に関する報道関係お問い合わせ先>

三井デザインテック株式会社 広報代理
株式会社プラップ ジャパン 手川・佐藤

E-mail: h-tegawa@prap.co.jp TEL: 03-4580-9107 FAX: 03-4580-9133